

# 生涯学習 標準カリキュラム

プログラム名	コース名	No.	科目名	一般目標	項目	時間 (分)
卒前履修		0	公益社団法人 日本義肢装具士協会 (JAPO) の紹介	JAPOの経緯, 目的, 活動の理解 専門職及び職能団体の役割の自覚 *学生会員→正会員の移行促進プログラム	概要 (沿革, 事業, 組織, 会勢, ほか) 公益法人の役割 生涯学習と専門士制度の展望	60
新人プログラム	合計175分 (2h55m) 115分 (Web) + 60分 (対面) ・対象: 資格取得後5年以内のPO ・受講料: 正会員無料・非会員¥17,000.-	1	義肢装具の歴史	義肢装具 (士) の歴史, 変遷の理解	義肢装具世界史, 義肢装具の日本史, 貢献者, 他	10 10
		2	義肢装具士関係法規	義肢装具士業務に関する法規, 制度の理解	義肢装具士法 義肢装具士業務指針 (2020改訂版)	15 10
		3	職業倫理	義肢装具士に求められる倫理の理解	医の倫理 義肢装具士の職業倫理 個人情報保護・事例検討	10 10 10
		4	義肢装具等補装具費の支給制度	義肢装具の支給制度の理解	治療用 更生用	25 15
		5	対人援助技術 (基礎・ワークショップ) : 対面	社会人として必要な対人援助技術の理解と習得	対人援助技術: 接遇マナー	60
一般プログラム	臨床基礎コース 合計: 405分 (6h45m) 345分 (Web) + 60分 (対面) ・受講料: ¥6,000.- (正会員)	6	多職種連携 I : 概論	義肢装具士に必要な多職種連携の理解	概論: IPWの概念と必要性	15
		7	多職種連携 II : 分野別	義肢装具士に必要な多職種連携の理解	専門職種間連携における義肢装具士の役割と責任 (1) 医療分野 専門職種間連携における義肢装具士の役割と責任 (2) 福祉分野 専門職種間連携における義肢装具士の役割と責任 (3) 在宅分野	30 30 30
		8	リスク・マネジメント I : 概論	義肢装具士に必要な安全管理の理解	医療事故/医療過誤/インシデント/ヒヤリハット PL法 義肢装具関連事故の現状	15 15 15
		9	リスクマネジメント II : 防止対策	義肢装具士に必要な安全管理の理解	医療事故防止対策 感染予防対策 転倒予防対策	15 15 15
		10	教育手法	後進指導が行える (臨床実習生を含む)	教育手法: 教育基礎理論 教育手法: コーチングに基づく後進指導	30 60
		11	対人援助技術 (医療接遇) : 対面	義肢装具士に必要な対人援助技術の理解	ユーザーの権利, 合理的配慮など, POに必要な対人援助技術	60
		12	支援機器の基礎知識	義肢装具士に必要な支援機器の基礎知識の獲得	福祉用具 歩行支援ロボット 福祉住環境 車椅子・シーティング	15 15 15 15
		13	クリニカル・リーズニング	義肢装具士に必要な臨床推論の思考の獲得	概念, 用語と定義	30
		14	症例報告	経験した症例について: ・臨床工程を客観的に記述できる ・義肢/装具の効果を科学的に報告できる	症例報告の意義, 目的 症例報告に求められる要素 (PICO, 他) 発表の仕方 報告の仕方	15 45 35 35
		15	研究: 読解編	他者の研究発表/報告が理解できる	概論 (研究の必要性, エビデンスレベル, 倫理, 研究の種類, 他) 研究倫理 統計学 I (解釈, データの見方, 他)	60 30 60
		16	研究: 実践準備編	自身で研究を遂行する際の前提知識の理解	研究計画と実践 (文献検索を含む) 研究手法: 動作分析 研究手法: いろいろな計測, 解析手法 (筋電, 生体試験) 研究手法: いろいろな計測, 解析手法 (材料試験関連) 研究手法: アンケート 統計学 II (研究モデル毎の適応, 他) 科学論文の書き方	40 20 35 30 30 50 45
	研究基礎コース 合計: 560分 (9h20m) 560分 (Web) ・受講料: ¥6,000.- (正会員)					